

# 航空従事者の飲酒基準に関する検討会 ご説明資料



2019年2月28日  
定期航空協会

資料2-2



昨年の10月以降、運航乗務員のアルコール検査規定値超え、乗務前アルコール検査未実施事案や、客室乗務員の乗務中の飲酒等、定期航空協会加盟社によるアルコールに関する不適切な事案が連続して発生しており、多大なるご迷惑とご心配をお掛けしていることを、あらためて深くお詫び申し上げます。

業界横断的な取組みを着実に実施していくことで、「**航空従事者のアルコールによる不適切事案再発『0(ゼロ)』**」を目指し、航空の安全に対する信頼を取り戻すための再発防止策を全会員社で進めて参ります。

## 業界としての取組み：委員会の立上げ

- ・ 定期航空協会内に、会員社の安全統括担当をメンバーとした**新たな委員会を立ち上げました(ANA/JAL/SKY)**。これまで計6回の委員会を開催し、その内容を、全会員社が参加する会議(これまで4回開催)にて共有を図っております。
- ・ 上記委員会を軸に、業界を挙げての「**意識改革**」と「**再発させない仕組み**」を実行することで、再発防止にむけた取組みを継続的に実施します。
- ・ 業界として**アルコール不適切事案再発『0(ゼロ)』**を目指し、今後も定期的に委員会にて対策を立て、迅速に**全会員社が実行できる体制を構築**します。
- ・ 業界として注意喚起を促す機会を年に1度設け(「**飲酒に係る不適切事案の撲滅キャンペーン(仮称)**」)、永続的な再発防止に繋がります。



## 業界としての取組み：意識改革

**航空従事者全員に『アルコールが体内に残った状態で業務にあたるのは悪』という認識を持たせます。**

### 具体的な取組み内容(2018年度内に完成)

- ① **業界共通の教育カリキュラム策定** ※航空局、航医研との共業
  - ・アルコールの基礎知識から依存症など様々な情報を掲載。
  - ・各社が必要に応じてアレンジできるカリキュラムとする。
- ② **動画教材の策定**
  - ・実例をもとに、ほんの小さな気の緩みから飲酒により退職にまで至った事例とし、自身にも起こりかねない身近な問題であることを認識させる。
- ③ **飲酒カードの携行**
  - ・IDカードとともに携行し、飲酒量やアルコール分解等を常に意識させ、日常会話の中での意識向上を図る。
- ④ **パンフレット・リーフレットの活用**
  - ・内容は「教育カリキュラム内容の抜粋版」と「依存症防止」等
  - ・特に家庭や職場で活用し、家族での適正飲酒サポートに繋げる。





## 業界としての取組み：再発させない仕組み

**正確で確実なアルコール検査体制の構築ならびに、その検査体制の確実な維持と統一的な運用が図れるよう業界を挙げて支援します。**

### 具体的な取組み内容(2019年度内)

- ① 会員社の再発防止策策定や正確な検査体制構築へのサポート
  - ・ 定航協会員社が活用できる、アルコール検査共通システム構築の検討を開始する。
  - ・ 検査体制構築に向け、委員会ならびに外部機関(ASK/NPO法人等)から会員社へアドバイスをを行い、検査機の精度維持方法、検知をめぐるトラブル事例、他業界での訴訟事例などを学ぶことで、常に正しい検査が実施できる体制を整える。
  - ・ 飲酒問題当該社の経験を全会員社で共有、会員社での再発防止策の立案などを支援する。
- ② 相談窓口の設置
  - ・ 「会社と紐づかない相談窓口(外部機関)」を設け、アルコール依存全般に関する相談や、新基準のもとでのお酒の付き合い方の指導を行い、航空従事者の依存症予防や、業務に支障をきたすことのない体制を構築する。
- ③ 検査第三者立ち会い者への教育
  - ・ 検査に立ち会う「第三者」となりうる社員を対象とした業界共通の「アルコール講座」を実施し、検知器をめぐるトラブルや起こりうる不正等の知識を有することで、確実な検査の実施に繋げる。
- ④ アルコールに関する定期的な情報提供
  - ・ 各社で生じた飲酒に関わる事例やアルコールに関する周辺情報を定期的に会員社へ提供する。必要に応じてその内容教育カリキュラムに反映させる。